

日経平均反発 来週の掉尾の一振を期待させる終わり方

日経平均は反発して今週の取引を終えた。下げて始まったが、後場早々に切り返した。2万3000円の節目が抜けず上値が重いと言われるが、逆に2万3000円から下に放れない膠着感がある。終値は2万2902円で引けた。すなわち350円近く大幅高となった月曜日の終値をわずか1円であっても抜いて終えたということだ。クリスマス休暇をとる外国人投資家も多く閑散相場というがそんなことはない。東証1部の売買代金は概算で2兆4000億円。そこそこ出来ている。実はTOPIXは3日続伸で連日年初来高値を更新している。先高期待の表れだろう。



(出所: Bloomberg)

来週25日からの年内最終営業日5日は上昇確率が高い特異日である。過去のリターンを計算すると日経平均は約7割の確率で上昇していた。今年も「掉尾の一振」が期待される。

ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会